

プロフィール（自己PR）

1976年、東京教育大学（現筑波大学）卒業。都立高校に公民科教員として奉職。教諭、副校長を経て2003年に都立第五商業高校長。教職員からの提案を集約して「五商再生総合プラン」をまとめて都教委から重点支援校に指定され、学校教育の充実と活性化を進めた。2006年、都教委内に新設された学校経営支援センター（西部支所）副参事。多様な課題を抱える20校の校長の学校経営指導を担当。2009年、都立武蔵丘高校長（中野区）。「友との絆、利他の志、大学進学への道」を掲げて学校改革に努めた。生徒が主体的に学ぶ枠組み創りと進学意欲・実績の向上、生徒の規範意識の高揚と基本的な生活習慣の徹底等に取り組み、都教委から「校務改善表彰」（平成24年度）を受けた。定年退職後、再任用の主幹教諭として教壇に戻り、都立練馬高校で進路指導主任を担当。人間としての在り方生き方を捉えたキャリア教育の総合計画「夢人プラン」を策定し推進した。2014年、東京都教育相談センターの学校問題解決サポートセンターで支援員。保護者や地域からの学校への要望や苦情に耳を傾け、問題解決と関係修復の助言に取り組んだ。2024年4月から、副校長マネジメント支援員として都立新宿山吹高校に勤務。

学校教育の傍ら、アマチュアの音楽グループ「芸能山城組」に創設時から所属。日本と世界の伝統的なコミュニティに息づく音楽や芸能の研究・習得・実践に半世紀にわたり取り組んでいる。1974年にはインドネシア・バリ島の群衆芸能〈ケチャ〉の日本での再現に参画した。ケチャは、多くの人々が4つの異なるリズムを声で刻み、指揮者もなしに猛烈に早い16ビートのリズムの網目模様を紡ぐ「絆の芸能」。人間が本来具える「気配」「以心伝心」「阿吽の呼吸」を感じてシンクロし合う「絆の脳機能」を活性化し、利害等を超えて人と人とを強く結びつける。こうした点に着目し、1976年からは、ケチャをはじめ日本と世界の共同体型パフォーマンスを披露し、地球社会の文化の多様性を謳いあげる「ケチャまつり」を最先端の都市空間で仲間と共にボランティアで開催し続けている。社会に分断や諍いが広がるとともに、スマホやゲーム、生成AI等のネット社会への依存が進むなか、音楽や芸能、祭り創りを通して「絆の脳機能」を高め、人々との絆を繋ぐ取り組みを重ねている。

教育委員になった際に取り組む課題（箇条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1.（課題）「中野区教育ビジョン」を画餅に帰さず具現化する取組について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- ・総花的対応でなく、各校が実情等を捉えて重点を絞り3年間程度を目途に力を集中。
- ・同じ重点課題を掲げる学校をグループ化して協働。情報交換・PDCAサイクルを徹底して各校が共有し、自校の取組の改善・充実に繋げ、他校に拡大。
- ・学力と社会性の向上は共通の重点。教育課程、家庭・地域の協力等の工夫を奨励。
- ・「グッドニュース」を全区的に「見える化」。学校と教員を称揚。特色として定着。

2.（課題）家庭や地域と連携しその教育力を活かす取組について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- ・各校の実情、効用と負担等を捉え、可能な取組を積み上げていくことが基本。
- ・家庭や地域と学校の連携に関するアセスメントを継続。専門家等の協力も得て改善。
- ・PTA等の協力で保護者会等を活用し「学校井戸端会議」を開催。あらゆる機会を捉えて子育ての悩みや経験の交流、「親学」を学び合う機会を充実。
- ・文化振興・多文化共生推進課や地域学校協働本部等と連携し、地域の祭礼や文化事業等への学校の参画も奨励。子供の社会性向上、地域での交流、文化の活性化に貢献。

3.（課題）保護者・地域と学校のトラブルを解決する取組について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- ・日頃から保護者や地域との意思疎通、協力協働体制の充実を図ることが何よりも基本。
- ・関係機関と連携し、保護者・地域対応やトラブル未然防止の管理職・教員研修を徹底。
- ・保護者が学校への要望や意見等を忌憚なく相談できる学校の内外の体制を整備。
- ・学校の管理職が、教育委員会、スクールロイヤーやスクールソーシャルワーカー、管理職の経験者等に学校経営や子供対応の課題や悩みを気軽に相談できる体制の充実。
- ・解決困難な課題は学校任せにせず、教育委員会が積極的に関与して打開。

氏名 谷島 昭

教育委員に応募する理由（横書きで記入してください）

学	校	問	題	解	決	サ	ポ	一	ト	セ	ン	タ	一	在
職	時	、	保	護	者	・	地	域	の	要	望	や	苦	情、
学	校	か	ら	の	相	談	に	対	応	し	、	事	態	の
深	刻	さ	を	痛	感	。	不	信	と	対	立	が	学	校
と	家	庭	を	疲	弊	さ	せ	、	子	供	達	の	成	長
に	影	を	落	と	し	て	い	る	。	学	校	が	子	供
達	一	人	ひ	と	り	の	成	長	に	全	霊	を	尽	く
す	。	家	庭	や	地	域	が	そ	れ	ぞ	れ	の	役	割
と	責	任	を	担	い	、	学	校	を	支	え	協	働	し
補	完	し	合	う	。	こ	れ	が	本	来	の	教	育	環
境	で	は	な	い	か	。	社	会	の	変	化	が	急	で
子	供	達	を	巡	る	難	題	が	増	え	続	け	る	今、
こ	の	本	来	を	大	事	に	し	て	教	育	環	境	を
整	え	る	教	育	委	員	会	の	使	命	は	さ	ら	に
重	く	貴	い	。	長	く	教	育	現	場	で	教	員	の
喜	び	や	苦	し	み	を	自	ら	も	体	感	し	、	学
校	教	育	の	改	善	と	充	実	に	努	め	て	き	た。
保	護	者	や	地	域	の	学	校	へ	の	切	な	る	願
い	や	厳	し	い	声	に	も	耳	を	傾	け	て	き	た。
一	方	、	音	楽	・	芸	能	・	祭	り	創	り	を	通
し	て	人	と	人	と	の	絆	を	繋	ぐ	活	動	を	重
ね	て	き	た	。	こ	う	し	た	経	験	と	知	見	を
活	か	し	、	教	員	が	余	裕	と	誇	り	を	も	ち
元	気	に	子	供	達	に	向	き	合	え	る	学	校	、
そ	れ	を	拠	点	と	す	る	本	来	の	教	育	ネ	ッ
ト	ワ	一	ク	の	構	築	に	教	育	委	員	と	し	て
貢	献	し	た	い	。									